

■ 学校の共通目標

授業づくり	重点	・人と関わりの中で、多様な考えや価値観に触れ、互いを認め合ったり、広げ深め合ったりすることができる授業を目指す。	中間評価	校内研究で特別活動の研究をし、自分の思いや考えをもち、人との関わりの中で、広げ深めることができる授業づくりを進めている。また、研究で培ってきた力が他教科にも生かされてきている。	最終評価	
		・各教室の板書掲示を統一することで、全校の学習の流れを定着させる。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、どの児童にもわかりやすく、集中できるような環境づくりを行う。		・全校で「めあて」や「まとめ」、「ふりかえり」など、児童の学習への取り組み方、ノートのまとめ方などが身に付いてきている。 ・児童が学習内容に集中できるよう、掲示物の貼る位置や内容を配慮している。		

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)
1	国語	<p>【学】「話すこと・聞くこと」について、話し方・聞き方の基本的なルールを確認している。</p> <p>【学】平仮名の読み書きについては、およそ8割の児童が習得している。片仮名の読み書きについては、理解が十分ではなく、適切に使えていない様子が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後まで話を聞くことができない児童が数名みられる。また正しい言葉遣いで話すことにも課題がある。</li> <li>・片仮名や新出漢字については、読み書きともに習得していない児童がみられる。</li> <li>・「は」「を」「へ」などの助詞についての理解が十分ではなく、文章の中で適切に使えていない。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して「話すこと・聞くこと」についての基本的なルールを指導する。また、掲示物を用意し、常に児童自身が意識できるようにする。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つながりのある文や文章の書き方を指導する。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい言葉遣いで話すことができるよう、簡単な話型を指導する。</li> <li>・定期的に片仮名や既習漢字の復習を行う。</li> </ul>	
	算数	<p>【学】10以内の加法・減法については、ほとんどの児童が理解できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10の合成・分解の理解が不十分な児童が見られる。</li> <li>・繰り上がりのある加法についての技能の習得が不十分である。</li> <li>・「何時」「何時半」など時刻の読み取りに課題がある。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動や絵や図などを使って視覚的に理解できる掲示を計画的に取り入れる。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な計算練習を繰り返し行い、習得を図る。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の中で児童に時刻を尋ねたり見させたりして、時刻を読み取らせることを意識的に行う。</li> </ul>	
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月) → 最終評価 (2月)
2	国語	<p>【学】「話すこと・聞くこと」について、話し方・聞き方の基本的なルールを確認している。</p> <p>【学】平仮名及び片仮名の読み書きについては、ほぼ全ての児童が習得しているが、文や文章の中で適切に使えていない様子が見られる。また、これまで習った漢字の習得は不十分で、習った漢字を使って文章を書く習慣が身に付いていない。</p> <p>【学】新出漢字については、興味をもって習得しようとする意欲がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大事なことを落とさないようにしながら、集中して話を聞くことには課題がある。</li> <li>・語と語や文と文との続き方に注意をしてつながりのある文章を書く経験が少ない。また、語彙力が乏しいため、具体的に書くことを苦手とする児童が多くみられる。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して「話すこと・聞くこと」についての基本的なルールを指導する。また、掲示物を用意し、常に児童自身が意識できるようにする。また、話す際は、5W1Hを意識して話すことができるようにする。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科以外の学習においても、つながりのある文や文章の書き方を指導する。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童との日常的なやりとりの中での「言葉」を大切に、正しい言葉遣いを身に付けさせると同時に語彙を広げられるようにする。また、仮名遣いや片仮名、既習漢字の復習を定期的実施する。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」の単元の学習の中で、反応をしたり質問・感想を述べたりしながら話し合うことについて指導した。他教科や日常生活でも生かすことができるよう引き続き丁寧に指導していく。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の単元の学習以外にも、感想や手紙などの文章を書く機会を意図的に多く取り入れ、書くことに慣れさせていく。また、文章を読み直したり友達と読み合ったりさせ、文と文の続き方に注意をして書くことができるように継続して指導していく。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な言葉遣いや、相手や状況に応じた話し方ができるようになってきた。日頃から本の読み聞かせや詩の群読などを行い、語彙を増やす取り組みを行っていく。</li> </ul>

	算数	<p>【学】10以内の加法・減法については、ほぼすべての児童が理解できているが、定着が不十分な児童もいる。</p> <p>【学】問題を把握する力が不十分で、立式をすることが困難な児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り上がり・繰り下がりのある加法・減法の計算についての理解が不十分である。</li> <li>・文章問題を読んで理解し、立式することに課題がある。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で算数ブロックなどの半具体物を用いた操作活動を計画的に取り入れる。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章問題において、「わかっていること」と「求めていること」を確実におさえ、何を問われているのかを理解できるように支援する。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な計算練習を繰り返し行い、計算力を高める。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期から始まったかけ算の学習では、九九の暗唱を繰り返し行い、確実に定着させる。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算の文章問題に取り組む際には、「一つ分の数」が「いくつ分」あるかを確実におさえ、正しく立式できるように指導していく。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算カードや家庭学習などで基本的な計算練習を繰り返し行っていく。</li> </ul>	
3	国語	<p>【調】教科全体の正答率は、86.6%と全国を3.8ポイント、区を1.3ポイント上回っている。</p> <p>【調】観点別、領域別においても全て全国、区を上回り、特に「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」は80%を超え、「言語事項」は90%を超える結果となった。</p> <p>【調】観点別において「読む能力」は全国平均を5.6ポイント上回ったものの、新宿区平均を0.7ポイント下回っている。</p> <p>【学】授業における取組状況を見ると、意欲的に取り組む児童が多い。特に漢字の学習や音読の学習に意欲的である。しかし、ワークテストや漢字小テストの状況を見ると、十分に定着していない児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の観点では全国平均を上回っているものの区平均より0.7ポイント下回っている。指導の改善や工夫が必要である。</li> <li>・「言語事項」の領域、観点では全国、区を上回っているが、その差が1ポイント以内という状況である。漢字の読み書きや、言葉の特徴やきまりについての理解に課題がある児童の底上げを図る必要がある。</li> <li>・授業の様子から、大事なことを落とさないようにしながら、最後まで話を聞くことに課題があるので、支援や指導の工夫が必要である。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」の単元は、他の領域よりも時間を多めに設定し、丁寧に指導ができるようにする。物語文では、「おもしろいところ」「好きなどころ」を足場にして、自分の考えを形成する学習を重点的に行う。説明文では、文章全体の組み立て方や、本文中の叙述を根拠にした感想をもつ学習を重点的に行う。</li> <li>・「言語事項」の習得に関しては、既習漢字は必ず使うことを意識させるとともに、きちんと書くことを意識させ、「とめ、はね、はらい」などの習得を徹底していく。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。</li> <li>・物語文に出てくる事柄や児童のノートなどを、ICT機器を積極的に利用して、視覚化を図る。</li> <li>・「自分の考えをもつ」→「自分の考えを伝える（班・全体）」という活動を取り入れ、読み取ったことや感じたことを共有できるようにする。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「漢字の読み書き」「言葉の特徴やきまり」について習熟を図るため、週に1回程度の小テストを実施する。</li> <li>・読書活動を推進し、物語など文章を読むことに親しませる。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読み、自分の感想をもち、それを友達と交流する学習を重点的に行ったことで、様々な感じ方を得られたり、読むことへの意欲の向上につながったりしている。</li> <li>・毎日の宿題で、新出漢字を丁寧に練習することを徹底して習得を目指している。また、ノートやプリント等、既習漢字は必ず使って書くことを意識させている。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、その授業のねらいを明確にして、「何を学ぶのか」を意識できるようにしている。また、授業の終わりには、ねらいを達成できたか振り返りを行うことで、よりねらいを意識できるようにしている。</li> <li>・ICT機器により、視覚化を図って理解を深められるようにしている。より多角的な使い方を学び、活用できるようにしていく。</li> <li>・自分の考えをもった上で、班で話し合ったり共有したりする時間を意識的に設けている。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週に1回程度、漢字小テストを行い、習熟を図っている。</li> <li>・読書の時間を定期的にとったり、読み聞かせを行ったりして文章に親しむことができるようにしている。</li> </ul>	
	算数	<p>【調】教科全体の正答率は、79.6%と全国を7.8ポイント、区を3.8ポイント上回っている。観点別においてもすべて全国、区を上回り、特に「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」で大きく上回っている。</p> <p>【調】領域別では、「数と計算」「量と測定」ともに全国、区を上回っているが、特に「量と測定」で大きく上回っている。</p> <p>【調】四分位分布では、A層B層が全体の約8割、C層D層が全体の約2割である。正答率50%以下の児童は全体の1割弱である。</p> <p>【学】授業における取組状況を見ると、意欲的に問題に取り組んだり、自分の考えを発表したりする児童が多い。しかし、計算力や、文章問題を自力解決する力においては、個人差が開きつつある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・C層D層を合計した割合は19.4%であり、学力下位層の底上げと習熟の程度に応じた指導が必要である。</li> <li>・集中力の持続と根気よく取り組む姿勢や、最後まで正確に問題を読み取る指導が必要である。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて、単元ごとの児童の実態を正確に把握し、習熟度別による適正なクラス分けを行い効果的な個別指導が行き届くようにする。</li> <li>・習熟度別指導で、特にD層の児童については、基礎的基本的な学習内容の指導を徹底する。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。</li> <li>・習熟度に合わせて、教材を用意する。</li> <li>・ICT機器を積極的に活用して視覚化を図り、学習意欲の維持や思考の整理の手助けを行う。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かけ算やくり上がり、くり下がりのある計算など、基礎的な計算問題を継続して取り組ませ、計算力の向上を図る。</li> <li>・計算ドリルの宿題だけでなく、プリントの宿題を出すことで、児童が算数に取り組む機会を多くする。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに適正なクラス分けを行い、個別指導が行き届くよう努めている。</li> <li>・習熟度別指導や宿題や放課後学習により、C層D層の児童に基礎的基本的な学習内容が定着するよう努めている。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、その授業のねらいを明確にして、「何を学ぶのか」を意識できるようにしている。また、授業の終わりには、めあてを達成できたか「ふりかえり」を行うことで、よりめあてを意識できるようにしている。</li> <li>・習熟の進度が速い児童には追加教材を用意したり、進度がゆっくりな児童には課題を選別して提示したりしている。</li> <li>・ICT機器を積極的に活用することで、児童の意欲向上や、思考の整理、発表への自信などにつながっている。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日継続して計算の宿題を出すことで、計算力の向上に務めている。</li> <li>・習熟が不十分な児童には、休み時間や放課後等に個別対応を行っている。</li> </ul>	

4	国語	<p>調教科全体の正答率は、78.5%と全国を2.4%上回る結果である。</p> <p>調観点別正答率を見ると「関心・意欲・態度」は全国よりも1.1%、「書く能力」は7.6%下回っている。</p> <p>調領域別に見ると、「話すこと・聞くこと」「言語事項」「読むこと」では、正答率が平均もしくは平均より上回っている。ただし、「書くこと」の正答率が全国を下回っている。</p> <p>学授業における取組状況を見ると、意欲的に文章を読んだり、漢字の学習を進めたりしている児童が多い。しかし、書くことについては苦手意識の強い児童が多い。学習のふり返りや感想などは書けるが、文章を構成してまとめることが苦手ななかなか書き進められない様子が見られる。</p>	<p>・「書くこと」は、段落の構成の仕方について考えながら文章を読むことを意識させたり、伝える相手や目的を意識して書くことを意識させたりすることが重要である。継続して指導していく必要がある。</p> <p>・学力下位層のC層は35.1%、D層は7%である。底上げと習熟の程度に応じた指導が必要である。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入やまとめの方法を工夫し、単元を通して関心をもって学習に取り組むことができるようにする。</li> <li>言語については、繰り返し練習し、小テストを通して定着するように工夫する。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、めあてを明確にした授業を展開する。</li> <li>文章や挿絵、写真などは、ICT機器を積極的に活用して、視覚化を図る。</li> <li>文章の書き方に関しては、教師や児童の手本を示すことで取り組みやすくする。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週に一度漢字小テストを行い、漢字の定着を図る。</li> <li>文学的文章や説明的文章を随時紹介し、単元と絡めて多くの本に触れさせるようにする。</li> <li>行事を中心にミニ作文を書き、文章を書くことに慣れさせる。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元全体の目標と1時間ごとの目標を提示しているので、児童は終末の活動までの見通しをもって学習に取り組むことができている。</li> <li>語彙力を高めるために、国語辞典や漢字辞典を使って意味調べをしている。漢字は繰り返し練習を行っている。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、めあてを明確にして授業を進めているので、児童もめあてに則した振り返りができるようになってきている。</li> <li>文章や挿絵、写真などは、ICT機器を積極的に活用して、視覚化を図っているため、文字が苦手な児童も意欲的に取り組んでいる。</li> <li>文章の書き方に関しては、2学期の読書感想文をもとに原稿用紙の書き方を改めて指導した。友達の感想文も聞いて交流することで色々な表現方法があることを知ることができていた。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週に一度行っている漢字小テストにおける漢字の定着率はおよそ80～85%である。</li> <li>単元は勿論のこと、随時おすすめの本を紹介しているため、多くの本に興味をもって読書が続いている児童が多い。</li> <li>行事を中心にミニ作文を書いているので、文章を書くことに慣れてきた。</li> </ul>	
	算数	<p>調平均正答率を見ると、73.8%と新宿区の平均を0.1%、全国を3.8%上回る結果であった。</p> <p>調四分位分布を見ると、A層が36.8%と一番多いものの、C層、D層の合計が33.3%と、全体の半数近くである。</p> <p>調観点別に見ると、「数学的な考え方」が62.3%と一番低かった。領域別では「図形」が70.2%と一番低かった。</p> <p>学授業における取組状況を見ると、意欲的に取り組む児童が多い。新しい事柄についてはグラフの書き方、分度器を使って角度を測るなどに課題が見られる児童がいる。</p>	<p>・区平均とほぼ変わらない四分位分布であるが、B層は3.6%下回っている。B～D層の底上げと習熟の程度に応じた指導をより一層推進する必要がある。</p> <p>・「図形」において、分度器やコンパスなどを操作、比較・観察的活動を取り入れて、実感を伴った指導をしていく必要がある。</p> <p>・正答率50%以下の児童の底上げを図っていく必要がある。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別指導で、特に正答率が70%以下の児童については、基礎的・基本的な学習内容の指導を徹底する。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間のめあてを明確にした授業を展開する。</li> <li>図形や表など、多くの単元でICT機器を積極的に活用し、視覚化を図る。</li> <li>「図形領域」では実際に作図・観察させる活動を重点に置き、指導をしていく。</li> <li>習熟度に合わせて、教材を用意する。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計算ドリルの宿題をくり返し行わせたり、ドリルのほかにプリント学習を行わせたりすることで、児童が算数に取り組む機会を多くする。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別指導で、苦手な所の基礎的・基本的な学習内容の復習や東京ベーシック・ドリルの活用をすすめ、定着を図っている。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間、めあてを明確にしているため、めあてに則したふりかえりを行うことができるようになった。学習の流れも明確になるので、児童も学習の見通しがもてるようになった。</li> <li>習熟度に合わせて教材を用意したり、図形や表など、多くの単元でICT機器を積極的に活用し、視覚化を図ったりしている。「図形領域」でもICT機器を活用し、実際に作図・観察する際に思考が整理できるようになってきた。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計算ドリルや東京ベーシック・ドリル、プリントで繰り返し学習を行うことで、児童の算数への苦手意識がなくなっていくようにしている。</li> </ul>	

5	国語	<p>【調】教科全体の正答率を見ると目標値よりは上回っているものの、新宿区の平均より1.5%下回る結果となった。「言語についての知識・理解・技能」においては、新宿区の平均より、5.1%、全国の平均より2.4%下回っている。</p> <p>【調】2年から4年までの経年の変化を見てみると、学年が上がるごとに正答率が下がる結果となっている。</p> <p>【学】授業における取組状況では、意欲的に取り組む児童が多い。書くことの内容や読む力については、B評価とC評価の間の児童が多くいる。多くの観点において、目標値及び全国平均を上回っており、満足できる状況である。「話すこと・聞くこと」については、大きく全国平均を上回ってはいるが、日頃から話の内容に注意して聞くことは、継続して指導していく必要がある。</p>	<p>・「言語についての知識・理解・技能」「伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項」においては、区や全国の平均を大きく下回っている。日常の授業において、言語に関する指導を意図的、計画的に行っていく必要がある。</p> <p>・書くことに対して苦手意識をもっている児童が多く見られる。意欲的に書く活動に取り組めるよう具体的な支援や指導の工夫が必要である。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>導入やまとめの方法を工夫することで、単元を通して関心をもって学習に取り組めるようにする。</li> <li>言語については、繰り返し練習したり、ゲームやクイズなどの形式にしたりして、定着するように工夫する。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。</li> <li>文章や表、児童のノートなどを、ICT機器を積極的に活用して、視覚化を図る。</li> <li>教師や児童の手本を示すことで取り組みやすくしたり、読書の時間を意図的に設定したりし、文章に触れる時間を多くする。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週に一度漢字小テストを行い、漢字の定着を図る。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字練習や言葉の学習などの時間をできるだけ多く設定している。また漢字テストに関しては、再テストを繰り返し行うことでB層やC層の児童も少しずつ成果が表れてきている。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を積極的に活用し、視覚化を図ったことが特に児童の学習意欲の向上や維持につながっている。</li> <li>書く単元において、学習モデルを示してから学習に取り組みせたり、児童同士で互いに作品を見せ合う取り組みをしたりしたことが、意欲の向上につながった。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な家庭学習や、定期的に行っている漢字小テストにより、学習した漢字を正しく書いたり使ったりすることにつながっている。</li> </ul>
	算数	<p>【調】平均正答率を見ると全ての観点で新宿区の平均を下回る結果となった。特に、「関心・意欲・態度」は区の平均を5.7%下回っている。</p> <p>【調】四分位分布を見ると、A層が45.5%と一番多いものの、C層、D層の合計が42.4%と、正答率50%未満の児童が全体の半数近くにのぼる。</p> <p>【調】3年から4年の経過を見ると、正答率分布は全体的には山なりの分布が平らになってきているという結果となった。</p> <p>【学】授業における取組状況を見ると、意欲的に取り組む児童が多い。新しい事柄についてはグラフの書き方、分度器を使って角度を測るなどに課題が見られる児童がいる。</p>	<p>・すべての観点で新宿区の平均を下回っており、算数全体の底上げが必要である。算数に対する苦手意識をもっている児童も少なくない。児童が意欲や自信をもって取り組めるよう、教材の工夫や、授業展開の工夫が必要である。</p> <p>・最後まで正確に問題を読み取ったり、根気強く問題に取り組んだりできるよう指導を続けていく。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別指導で、特に学力テストでの正答率が70%以下の児童については、基礎的・基本的な学習内容の指導を徹底する。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間のめあてを明確にした授業を展開する。</li> <li>図形や表など、多くの単元でICT機器を積極的に活用し、視覚化を図る。</li> <li>毎時間の後半にその日に学習した内容のプリントに取り組み、学習内容の定着を図る。</li> <li>習熟度に合わせて、教材を用意したり、授業の展開を工夫したりする。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計算ドリルの宿題だけでなく、プリントの宿題を出すことで、児童が計算に取り組む機会を多くする。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度指導、宿題、放課後学習によりD層の児童の学習内容の定着を図ることができるように努力した。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間の始めに前時の復習問題に取り組む時間を設定したことが、特にC層の児童において学習内容の定着につながっている。</li> <li>ICT機器を積極的に活用し、視覚化を図ったことで、特に学習意欲や思考の整理の面で効果が見られている。</li> <li>今後は、友達の考え方を他者が説明したり、補足したりするなど児童が互いに学び合う活動を取り入れる。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プリントの宿題を出し、児童が算数に取り組む機会を多くしたことが、特にC層の児童において学習内容の定着につながっている。</li> </ul>
6	国語	<p>【調】教科全体の正答率は、78.3%と全国を5ポイント上回っている。区の平均と比較しても1.1ポイント上回っている。昨年度は、区を0.7ポイント下回っている結果であったため、向上的な変容がみられる。観点別では、全てで全国と区を上回り、「書く能力」において大きな伸びが見られる。</p> <p>【調】正答率分布では、正答率80%以上の児童の割合は51%である。一方、正答率50%未満の割合は3%である。昨年度は、80%以上の割合が39%であったため向上的な変容が見られる。正答率50%未満の児童は、全体の1割に満たないが、これらの児童の底上げを図っていく必要がある。</p> <p>【調】四分位分布では、最も割合が高いのはA層であり、区を4.6ポイント上回っている。D層は6.5ポイント下回っている。C層とD層を合計した割合は、40.7%であり、学力下位層の底上げとより一層の習熟度に応じた指導が必要である。</p> <p>【調】4年から5年の経過を見ると、観点別では、全ての観点で大きく改善している。領域別に見ても、全ての領域で改善が見られる状況である。</p> <p>【学】意欲的に取り組む児童が多い。読むことや漢字の学習には特に意欲的である。書くことに対しては、昨年度より苦手意識をもつ児童が少なくなったように見られる。</p>	<p>・全ての観点、領域で全国や区を上回っているが、「話す・聞くこと」や「読むこと」、「言語事項」の領域では区との差が1ポイント以内という状況であるので、この領域への指導は継続していく必要がある。</p> <p>・C層とD層を合計した割合が、40%と高い。学力下位層の底上げと習熟度に応じた指導が必要である。</p> <p>・漢字については、意欲的に取り組む児童が多い中、定着しにくい様子が見られるので、指導の工夫が必要である。</p>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題である「話す・聞くこと」や「読むこと」の単元は、他の領域よりも時間を多めに設定し、筆者の主張を読み取る時間や、友達と互いの考えを伝え合うことができるよう指導の工夫をする。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間のねらいを明確にした授業を展開する。</li> <li>漢字の学習など、ICT機器を積極的に活用することで、視覚化を図る。</li> <li>特に「話す・聞くこと」単元では、学習モデルを示すことで、児童が安心して、見通しをもって取り組めるようにする。</li> <li>友達に話す、友達の話聞く活動への苦手意識を取り除くために意見を交流する機会を意図的に設ける。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に日記や漢字の書き取りの宿題を出すことで、漢字を正しく書く力の定着を図る。また、日記を書く際には、感情を表す言葉を入れて書くように指導し、宿題の中で繰り返し書かせることで力を高める。</li> <li>漢字を検定制にすることで、意欲的に漢字学習に取り組めるようにする。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「話す・聞くこと」や「読むこと」の単元について、他の領域よりも時間を多めに設定したことで、特にB、C層の児童で読み取る力や聞き取る力が少しずつ高まってきている。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達同士で考えを交流する時間を意図的に設定したことで、話す力や聞く力が高まるようにしている。</li> <li>漢字学習を中心にICT機器を積極的に活用したことで、漢字を書き取る力が少しずつ高まってきた。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画的に日記や漢字の書き取りの宿題を出したことで、漢字を正しく書く力や文章を書く力が高まるようにしている。日記については、感情を表す言葉を入れて書かせたことで、表現力が少しずつ豊かになってきている。</li> </ul>

	<p><b>算数</b></p>	<p>【調】教科全体の正答率は、60.1%と全国を2.0ポイント、区を7.1ポイント下回っている。観点別は、全てで区を下回っている。特に「数量や図形の技能」と「知識・理解」、「数と計算」の領域では、大きく下回っている。</p> <p>【調】正答率分布では、正答率80%以上の児童の割合は28%である。一方、正答率50%未満の割合は38%である。正答率50%未満の児童が全体の4割程度おり、これらの児童の底上げを図っていく必要がある。</p> <p>【調】四分位分布では、A層が区を13.8%下回り、D層が13.3%上回っている。C層とD層を合計した割合は、49.1%であり、学力下位層の底上げと習熟度に応じた指導が必要である。</p> <p>【調】4年から5年の経過を見ると、観点別では、「関心・意欲・態度」や「数学的な考え方」は少し改善している。また、領域別に見ると、「数と計算」では、大きく下回っているが、「量と測定」「図形」で少し改善がみられる。</p> <p>【学】授業中の学習に取り組む姿勢を見ると、意欲的に練習問題に取り組む児童が多いが、集中力や根気強さに課題があるために学習内容が定着しにくい状況にある。また、学力上位層と学力下位層の差が大きく開いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての観点、領域で区を下回っており、算数全体の底上げが必要である。特に、「数と計算」の領域に課題が見られるため、学習内容の定着が図れるよう教材の工夫や指導の工夫が必要である。</li> <li>C層とD層を合計した割合は、49.1%と高い。学力下位層の底上げと習熟度に応じた指導が必要である。</li> <li>問題に集中して根気強く取り組む姿勢に課題が見られる。集中力の持続と根気強く取り組む態度を養う必要がある。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どの単元においても、個人で思考する時間を意識的に設定し、教材や学習形態を工夫して授業を行う。</li> <li>習熟度別指導で、特にD層の児童については、基礎的・基本的な学習内容の指導を徹底する。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間のまとめや振り返りを徹底し、授業を展開する。</li> <li>できる限り、算数的な活動を取り入れ、児童が実感をもって理解できるようにする。</li> <li>毎時間の始めに前時の復習問題に取り組む時間を設定する。</li> <li>図形や表など、多くの単元でICT機器を積極的に活用し、視覚化を図る。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計算ドリルの宿題だけでなく、プリントの宿題を出すことで、児童が既習の計算に取り組む機会を多くする。</li> </ul>	<p>【年間計画・単元レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「個人で思考する時間を十分に確保し、その後に友達と考えを交流する」という学習の流れにしたことで、全員が主体的に学習できるようにしている。</li> <li>特にD層の児童について、レディネステストなどからつまずきを事前に把握することで、実態に合った指導を行うようにしている。</li> </ul> <p>【1単位時間レベル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間の始めに前時の復習問題に取り組む時間を設定したことで、学習内容が積み重なるようにしている。</li> <li>児童の理解を補うために、図形や作図の学習ではICT機器を積極的に活用し、視覚化を図っている。</li> </ul> <p>【その他の日常的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドリル学習とプリント学習を並行して行ってきたことで、既習の学習内容の理解が進んだ。それにより、問題に集中して取り組む力や根気強く取り組む力が身に付いている。</li> </ul>	
	<p><b>音楽</b></p>	<p>【学】3、4年生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習に意欲的に取り組む児童が多く、歌唱においては、曲に合った歌い方をする事ができる児童がいる。</li> </ul> <p>5、6年生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習に対して、意欲的に取り組む児童と集中することが難しい児童がいるが、歌唱においては、頭声を使い、響きのある歌い方をする事ができる児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>忘れ物が多く、学習に集中することが難しい児童がいる。</li> <li>曲の気分を感じ取って歌うことができず、曲に合った歌い方が身に付いていない児童がいる。</li> <li>声を聴き合いながら歌ったり、曲の様子を思い浮かべながら音楽を聴いたりすることが苦手な児童がいる。</li> <li>曲想を感じ取って歌ったり、音色に気を付けながらリコーダーを吹いたりすることが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任や家庭と協力し、学習に必要なものを揃えて、学習に集中することができるよう指導していく。</li> <li>強弱や速度の変化による曲の気分の変化を感じ取る学習を通して、様々な歌い方を身に付けることができるよう指導していく。</li> <li>学習内容を明確にし、学習に集中することができるよう指導していく。</li> <li>個別指導を充実させることで、基礎的・基本的な技能を身に付けさせ、曲想を生かして歌ったり、演奏したりすることができるよう指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に必要なものが揃い、学習に集中することができるようになってきている。</li> <li>音楽の様子を想像しながら歌わせることで、曲に合った歌い方が身に付いてきている。</li> <li>思いや意図をもって演奏することができるよう、様々な歌い方や演奏の仕方を指導していく。</li> <li>学習内容を明確にすることで、学習意欲が高まってきている。</li> <li>基礎的・基本的な技能がまだ身に付いていない児童がいるため、様々な題材を通して、少しずつ身に付けさせていく。</li> <li>卒業式に向けて、曲想を生かした歌い方や、式典における演奏を指導していく。</li> </ul>	
	<p><b>図工</b></p>	<p>【学】概ね皆の意欲が高く工夫しながら作品づくりを楽しんでいる。めあてを具体的にし、学び合いを取り入れてきた成果が出ている。しかしその中でも、丁寧に仕上げたり、さらに手を加えたりしてより良くしていこうという意識が低い層がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定していた作業が終わって時間がまだ十分にある場合、作品をよりよくするにはどう工夫をしていけばいいか考えない児童がいる。</li> <li>説明をしっかりと聞いて、集中して、作品をつくる事が難しい児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さらに仕上がりが良くなるような作業の指示を出し、できたら褒める。</li> <li>よりよい状態を見て学べるようにする。鑑賞の時に、よいところを具体的に紹介し、客観的に見るとどういところが「よい」とされるのかを学ばせる。</li> <li>進んで工夫することを楽しめるような題材設定をする。</li> <li>動機付けで、完成度の高い作品の参考例を見せたり、授業終わりの振り返りを徹底させたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある程度予定したものができたら終わりにしてしまう児童には、具体的な改善策をいくつか提示するようにし、選ばせることで改善を図っているが、自分自身の発想で工夫ができるようにさせていきたい。そのために制作途中での相互鑑賞を取り入れるなど発想を広げる工夫を増やしていく。</li> <li>単元ごとの「ふりかえりカード」は定着したが、毎時間ごとに「ふりかえりカード」も配って、授業態度や作品について、深く見つけ直させていく。</li> </ul>	
	<p><b>特支</b></p>	<p>【学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感が低く、自信がもてない児童が多い。</li> <li>書くこと、読むことが得意ではない児童がいる。</li> <li>人とコミュニケーションを取ることが苦手で、自分の気持ちを伝えることができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感の低さから、学習に意欲的に向かうことができない。</li> <li>読み書きの苦手さから、様々な教科で板書したり、文を書いたりすることになかなか取り組めない。</li> <li>相手の気持ちを想像したり、自分の思いを適切に表現したりすることができず、友達とうまくかかわれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「頑張りカード」を活用し、スモールステップでほめ、自信や達成感をもたせる。</li> <li>児童一人一人の実態や特性に応じた課題を提示したり、読み書きプログラムを活用したりして、苦手意識を減らし、意欲的に課題に取り組めるようにする。</li> <li>人とかかわりを意図的に設定し、ソーシャルスキルの学習を通して、相手の気持ちに気付かせたり、自分の考えを話したりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「頑張りカード」を活用したことや、できたことを毎回、ほめたことが、意欲や自信をもたせることにつながっている。</li> <li>読み書きの苦手な児童を中心に、タブレットを活用した学習を行ったので、興味をもって意欲的に取り組む児童が増えてきている。</li> <li>グループの学習では、友達と話し合ったり相談したりしながら活動に取り組ませた。具体的な声掛けの言葉を示したり、教師が仲介したりすることで、よい関わりが増えてきている。</li> </ul>	

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。